

【各連絡会からの課題】 障害者自立支援協議会 運営会議（2023. 2. 16開催）等での意見より

連絡会	課題	現状	問題点	留意事項	対策案
こども連絡会	<p>① 小牧市内の障がい児通所施設（児童発達支援、放課後等デイサービス）の空きがない。</p> <p>※今年度第2回での検討課題</p>	市外の事業所を利用されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎に時間がかかることで、利用する障がい児にも事業所スタッフにも負担になっているように感じる。 ・事業所での療育の時間数が減る。 ・営業時間（障がい児の預かり時間）は、保護者の就労時間帯よりも短いことが多く、事業所の療育のスキルやレベルよりも、「保護者の就労形態に合う預かり時間」「送迎の有無」で事業所を選ばざるを得ない人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年の制度再編以降、発達障害の認知の広がりや、女性の就業率の上昇に伴う預かりニーズの増加により、サービス量が大きく拡大している。 	
	<p>② 0歳児の医療的ケア児の保護者複数名が就労を希望しているが、預け先を確保できるか心配されている。</p> <p>※今年度第2回での検討課題</p>	今は母が働いていない	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児を受け入れる保育園が少ない ・保護者の就労時間ずっと利用できる障害児通所施設（放課後デイサービス、児童発達支援）がない。 		<p>医療的ケア児等コーディネーターが把握した就労希望の保護者については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該児の死亡 ・就労時期を遅らせる ・サービスを利用し、時短で勤務する予定 ・就職をあきらめた

連絡会	課題	現状	問題点	留意事項	対策案
	<p>③ サービス事業所と学校・幼稚園・保育園等との連携がうまくいかないことがある</p>	<p>関係者会議の際に関わりのあるサービス事業所に開催の連絡が入らなかったことがあった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が関係機関すべてに開催の案内をできないことがある（保護者自身の認識・調整スキル等） ・会議の開催、招集について中心となる機関が不明瞭な場合が有り得る 	<p>相談支援専門員が関わっていない場合に左記のことが生じ得る</p> <p>児童発達支援センター、基幹相談支援センター、市委託相談支援事業所の三者の役割分担の必要性</p>	<p>令和5年度からは小牧市に基幹相談支援センターが設置される。相談支援専門員がいない場合でケース会議が必要になったら、関係者が保護者の同意を得た上で、相談支援専門員に関わるよう基幹相談支援センターに依頼してほしい</p>
	<p>④ サービス事業所による学校へのお迎え時にトラブルがある</p>	<p>学校（教員）側に負担感がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時間の調整を学校に依頼される ・対象児が帰宅しまっていることがある 		
	<p>⑤ 不登校児のための対策（社会資源）が少ない・増えない</p>	<p>連絡会としては、不登校に対してどのような施策がされているか理解不足の状態。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・“にじいろ”の紹介 ・市の施策を確認する ・子ども連絡会及び相談支援連絡会で具体的な困りごとを追及する 	
	<p>⑥ 学校で医療的ケア児を受け入れるための看護師の確保が困難</p>	<p>再来年に市内の小学校に入学することを希望されている。</p>			